

# 令和4年度 【児童発達支援】 自己評価アンケートまとめ

## 職員による自己評価

専用に作られた建物のためバリアフリーになっている。シャワーが完備され、トイレも広く使いやすい。児童1~2名に対し職員1名の体制を整えている。その日の子どもたちの状態や特性に合わせて、楽しく、そして個々の子どもの発達目標に合った活動を心掛けている。非常勤職員の出勤と児童の送迎時間が重なる為、連絡掲示板等を活用して職員全員が共通認識をもって対応できるよう取り組んでいる。苦情ではないが対応に数日費やした案件が1件あった。児童発達支援の送迎ニーズが高い。(新規利用希望のお問い合わせについても送迎ニーズが高い。)

## 保護者による評価

子どもがおれんじを好きと言っている、不安や悩みを聞いてもらえたり個別に紹介してもらったときは助かった等、満足度について高評価をいただいているも、子どもの活動スペースが十分に確保されているか、職員の配置数や専門性は適切であるか分からないという意見があった。コロナ禍が落ち着いたら、保護者同士の連携の場を期待いただいている。



## 事業所内での分析

子どもたちが通所を楽しみにしてくれている。保護者からも高評価をいただいているが、実際の活動状況や工夫等が保護者から見えていないため、分からないという意見もあった。活動が固定化されないよう、様々な支援ができていく。気候の良い日は戸外活動を積極的に行っている。公共の場所へ出向き、地域の人たちと関わりを持つ支援ができていく。送迎ニーズに寄り添ったため、職員の時間的体力的負担感が大きくなってしまった。

## 事業所の強み

様々な特性を持った児童の為に作った施設なので、過ごしやすい環境である。のびのびと過ごせる広場があり、小動物と触れ合うことができる。子どもたちがどう楽しめるかを考え、適切な支援を行うにはどうしたらよいかなどを話し合い、職員間で声掛けを行いながら協力し合うことができている。対応可能な職員配置ができていくため、状況に応じて個別対応を行うことができる。

## 事業所の改善点

緊急時、防犯、感染症対応に関するマニュアル等が保護者や非常勤職員に周知されてきたが、十分ではない。個々の緊急な事柄については迅速に対応できるが、事業所全体にかかわる緊急な事態が起きた際の手順の整備を行っていく必要がある。ご家庭からの預かりものを明確に書きとめ、齟齬が生じないようにする。

## 事業所の改善への取り組み

ホームページは定期的(新年度毎)に見直し、更新を行う。保護者の皆様へのお便りや面談等を通して、緊急時等対応マニュアルや普段の活動内容について丁寧に発信していく。緊急時対応について定められた手順に従い行っていく。預かりものや連絡事項を明確に管理し、引き続き安心してご利用いただけるようにしていく。感染対策として食事(少人数ずつ摂る)と遊びのスペースをしっかりと分ける。子どもの気持ちに寄り添い、個々の発達目標や見立てに沿って統一感のある支援を行っていく。